

平成30年 1月20日(土)

# 佐伯遺跡(第9次) 現地説明会資料

調査場所 亀岡市葎田野町佐伯

調査期間 平成29年5月8日～平成30年1月末日(予定)

公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター  
〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40-3  
URL <http://www.kyotofu-maibun.or.jp>

## 1. はじめに

佐伯遺跡は、亀岡市葎田野町佐伯に所在する縄文時代から中世にかけての集落遺跡です。

佐伯遺跡の東側には天川遺跡、北側には鹿谷遺跡や太田遺跡などの縄文時代から中世にかけての集落遺跡が所在します。また、西側の丘陵裾部には佐伯古墳群があります(第1図)。

調査地近隣には、平安時代の『山陰道』が想定されており、この周辺は交通の要所であったと考えられます。

今回の発掘調査は国営緊急農地再編整備事業「亀岡中部地区」の実施に伴い、京都府教育委員会と亀岡市教育委員会の調査結果を踏まえ、当調査研究センターが平成27年度から継続して実施しています。

これまでの調査で、縄文時代の土坑や古墳時代の竪穴建物17基、奈良時代から平安時代の掘立柱建物10棟などが見つかり、断続的に集落が営まれていたことがわかっています。その中でも、方位を北にそろえた建物群や、役所や寺院から出土することが多い蹄脚円面硯も見つかり、奈良時代には役所など公的な施設が存在した可能性が考えられます。

## 2. 調査成果

今年度は8地区で調査を行っています(第2図)。今回は遺構と遺物がまとまって出土したC-1区とC-5区を中心に説明します。

### C-1区

トレンチ東部の3か所において奈良時代から平安時代の瓦(①～④)が多量に見つかりました。出土状況から瓦葺きの建物が倒壊した状態ではなく、後世に砕かれた瓦が堆積したと考えられ、その中から古墳時代から中世の

土器が出土しています。また、特筆すべき遺物として瓦塔という塔を模した土製品の屋根の破片も出土しています。

瓦堆積の約20cm下層から、南北方向に並ぶ一辺が0.7～1m、深さは0.6～0.8mの方形柱穴が2.5～2.8mの間隔で総延長約24m見つかりました。東西には柱穴が展開しないことから、建物ではなく掘立柱塀と思われ、瓦葺建物を区画する施設であるとも考えられます。

その他に古墳時代後期(6世紀末～7世紀初め)の1辺約4m前後の竪穴建物4基が見つかり、そのうちの2基ではカマドの跡を確認しました。また、時期は不明ですが東西方向の溝1・2や、掘立柱塀とは方位が異なる掘立柱建物も1棟見つかりました。

### C-5区

幅約7m、深さ約0.4mの溝2が見つかり、須恵器の杯や蓋など平安時代前期(9世紀)の土器と一緒に軒丸瓦③などが出土しました。その中には「福」や「田屋」などの文字が墨で書かれた土器や木簡、皿などの木製品が多数出土しました。また、時期は不明ですが上層で溝1が見つかりました。

### D-1・D-2区

奈良時代の土器が出土する溝などが見つかりました。

## 3. まとめ

今回の調査では、C-1区で多量の瓦が出土し、付近に瓦葺建物が存在した可能性があります。

具体的な建物や、寺院名を記す土器などは見つかりませんでした。奈良時代で寺院などで用いられる瓦が多量に出土したことや、仏教信仰の対象とされる瓦塔が出土していることから、廃絶した寺院と考えられます。

出土した軒丸瓦は文様が①③④の3種類あり、文様から最も古いと思われる軒丸瓦①は奈良時代頃のもので、瓦葺建物の創建時に用いられていた可能性があります。

軒丸瓦の中でも綾部市の綾中廃寺と同じ型の瓦③が最も多く出土したことから、瓦製作における工人の移動など綾中廃寺を建てた集団との強い結びつきがあったと考えられます。

亀岡市の古代寺院として、千歳町の丹波国

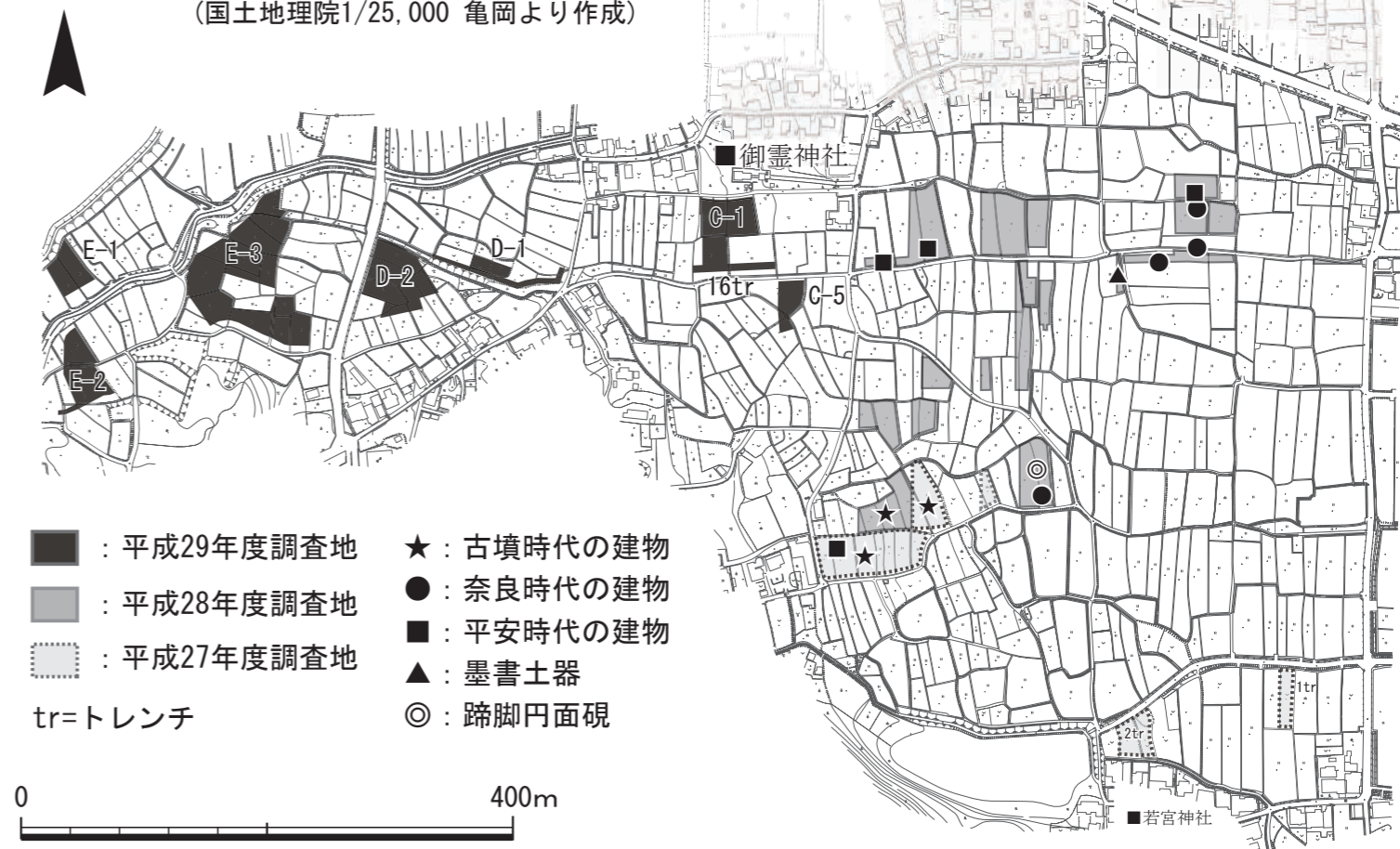
分寺・国分尼寺以外に千代川町桑寺廃寺、曾我部町與能廃寺、篠町観音芝廃寺、馬路町池尻廃寺があります。佐伯遺跡内における寺院の存在は、丹波地域における仏教の広がりを考えるうえで重要な手がかりになると考えられます(第3図)。

最後になりましたが、今回の調査に際し、参加していただいた皆様、各方面からご指導、ご協力いただいた皆様に、深く感謝いたします。



1. 佐伯遺跡 2. 佐伯古墳群 3. 佐伯館跡  
4. 天川遺跡 5. 鹿谷遺跡 6. 太田遺跡

第1図 調査地と周辺遺跡分布図  
(国土地理院1/25,000 亀岡より作成)

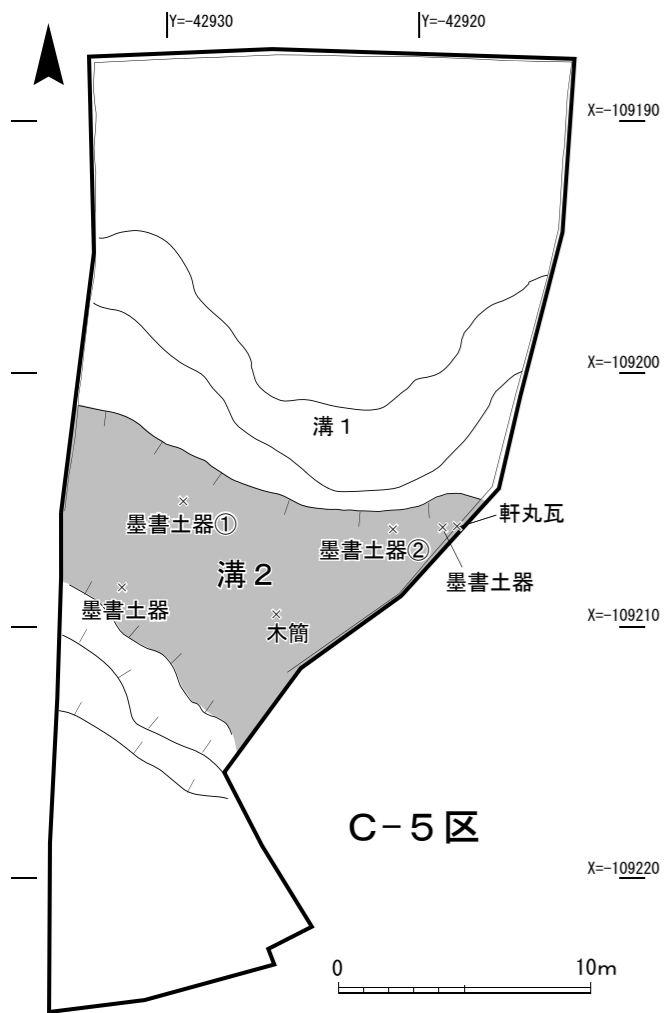


第2図 調査地区配置図

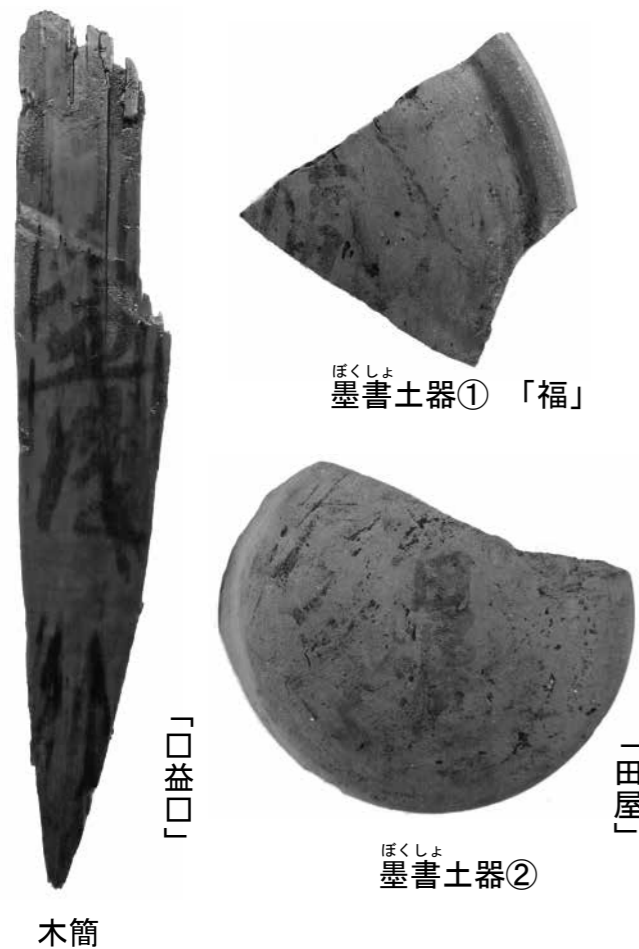
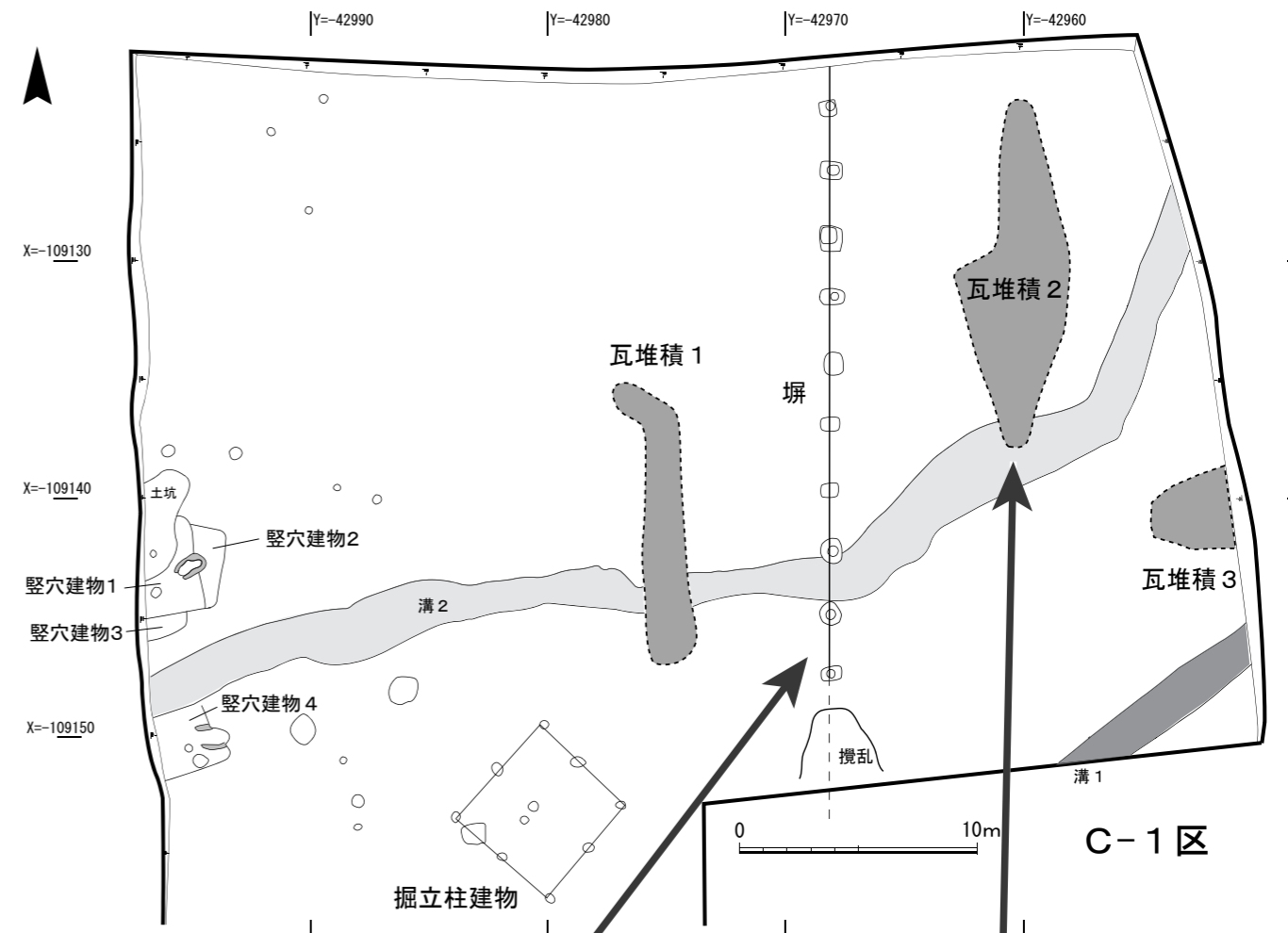


第3図 亀岡市内の主な古代寺院





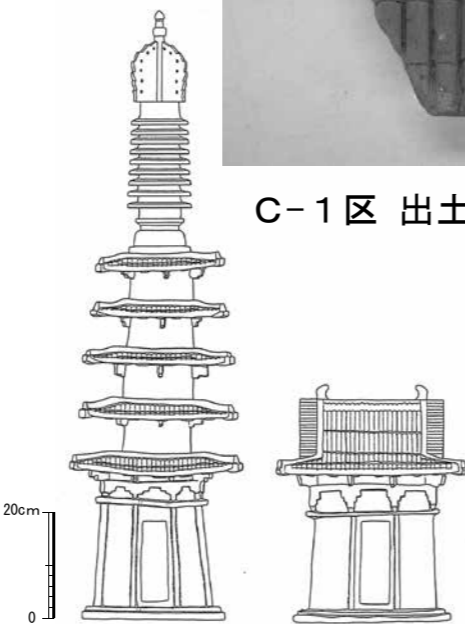
C-5区 溝2木筒・木製品出土



C-5区出土遺物



C-1区 出土瓦塔（屋根の一部）



『埼玉県児玉郡美里町東山遺跡出土瓦塔・瓦堂解体修復報告書』より

がとう  
瓦塔とは？

塔を模した小型の土製品です。奈良時代から平安時代に作られることが多く、「本物の塔の代わりにした」「瓦塔そのものを信仰の対象にした」など諸説ありますが、定説はありません。関東地方で多く出土する傾向があります。



C-1区 掘立柱堀（南から）



C-1区 瓦堆積2（南から）



C-1区出土瓦